



TITLE:

第三回汎太平洋學術會議

AUTHOR(S):

CITATION:

第三回汎太平洋學術會議. 天界 1926, 6(69): 533-537

ISSUE DATE:

1926-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160597>

RIGHT:

火星運河の問題も近年観測の進歩により幾分了解され、運河が通常の観測者なれば見えるものごされ、又運河が見えぬは観測者の資格が無いごまで言はれ1924年にはリックの36吋により10吋級ご同様に認められ、見える、見えないの舊い問題より進んで火星表面の季期變化の研究ご共に運河箇々の研究にまで進み得た事は可なりの進歩である。

又大口径で見えないご言ふ問題もビケリングが井ルソン山 100 吋、ヤーキス 40 吋、リック 36 吋、ムードン 32 等有數のものご十吋級の結果ご比較して、現在地球の大氣の状態では火星観測には 10 吋後のものが最適である事が示され、此の口径で努力を要する機会が甚だ多くなつた。

自分は 12 吋級の殊にカルザーの同口径のものを過去の優秀なる結果より見て夢想して居つたが、此れが偶然實現されカルザーの 13 吋が京大天文臺に据えられ、しかも其の構造鏡面は理想的のものであり現在までの結果を見ても可なりの成績を挙げ得る豫定である。又自有の六吋半エリソンも新しい完全なマウンティングにより充分なる活動に耐え得る事ごなり器械の點に於て此れ以上愈の言えない好都合である。殊に一昨年優秀な成績を挙げられた神戸のスコフィールド氏が八吋半カルザーを使用し共同観測を續けられる事は甚だ心強い。

〔10月96日稿〕

第三回汎太平洋學術會議

(The third Pan-Pacific Science Congress)

汎太平洋學術會議の目的ごする所は、太平洋地方にある諸國其の他同地方に關係を有する諸國の科學者相會して太平洋及太平洋地方に關する各種の科學的問題、殊に同地方諸民族の繁榮幸福を増進するに足るべきものにつきて攻究論議し、其の協力の下に此等問題の解決を敏速容易ならしむるごを力むるご共に、是等諸國の科學者間の交情を温め、延いて前記諸民族一般の平和の基礎を鞏固ならしむる上に貢獻せんごを期するにあり。

第一回汎太平洋學術會議は、一九二〇年ホノル、に於て開催せられ、其の成績甚良好なりしに鑑み一九二三年第二回同會議を濠洲學術研究會議主催の下に、メルボルン、シドニーの兩市に開き、其の效果更に多大なりしを以て、爰に同會議をして永久的のものたらしめんごし、之に關する規約案の起草は次會の會長其の他の役員の選定ご共に、一切之を次回主催國の學術研究會議若くは

之に類する機關に委任するこゝなれり。

之より先、本邦に於ては汎太平洋學術會議の甚有益なる事業たることを認めたるを以て、第一回會議には四名の代表者を送り、殊に第二回の濠洲會議には各科を通して十名の代表者を派遣し、又豫め政府の承認を得て第三回會議を本邦に於て開催すべく内定したるを以て、之を濠洲會議の總會に於て發表し本邦政府に我學術研究會議の名を以て正式に招待の意を致したるに、同總會は全會一致を以て熱誠に之を迎へ第三回會議を大正十五年本邦に於て開催することに決定せり。

爰に於て我學術研究會議は直に第三回汎太平洋學術會議準備委員會を組織し、更に各種の特別委員會を分設し又常務委員會を設置して同會議に關する施設計畫等につきて熟議を凝らし漸く成案を得たるを以て、大正十四年四月英文第一報を發表し關係諸國に正式の招待狀を發送するに共に、國內の學校、研究所、學會等に向て其の懇切なる援助を賛同を請ひ、學術の振興と國交の親善に貢獻し、以て本會議有終の美を濟さんことを希ふ所ありたり。

爾來準備の進捗と共に英文第一報に多少の改訂と増補とを施すの必要あるを認め同第二報を發行するに共に爰に邦文第二要報を編纂し本會議の行程につきて記する所概ね次の如し。

一、開	催	地	東京
二、會		期	大正十五年十月三十日より十一月十一日に至る
三、役		員	
總	被		載仁親王殿下
名	譽	會	長
名	譽	副	會
		長	內閣總理大臣
			關係諸國大使公使
			第一回第二回汎太平洋學術會議會長
			外務大臣、文部大臣
			貴族院議長、衆議院議長
			帝國學士院長、學術研究會議前會長
			各帝國大學總長、早稻田大學總長、慶應義塾大學總長
			東京市長
常 務 委 員			
會	長	學術研究會議會長	理學博士 櫻井 錠二
副	會	長	學術研究會議副會長
幹	事	學術研究會議會員	理學博士 田中館愛橘
同		同	理學博士 山崎 直方
同	(會計主任)	學術研究會議主事	理學博士 松原 行一
部幹事(物理的科學部)		學術研究會議會員	文部書記官 菊澤 季麿
		同	理學博士 今村 明恒
			理學博士 加藤 武夫

同	(生物的科學部) 學術研究會議會員	醫學博士	三浦謹之助
同		理學博士	柴田 桂太
準備委員會特別委員長	學術研究會議會員	工學博士男爵	斯波忠三郎
同		理學博士	岸上 鎌吉
同		理學博士	新城 新藏
同		工學博士	伊木 常誠
同		農學博士	安藤廣太郎

四、事 業

太平洋及太平洋地方に關する學術的問題につき論文を發表し、討議を行ひ、時々通俗講演を公開し、又會期中並に其の前後を通じ數回の見學旅行を行ふ。

前記の問題につきて豫定したる所次の如くなるも、場合により多少の變更増減あるべく又内外科學者の研究事項の特に發表さるゝものあるべきも、其の論點は概れ此等問題の範圍に集中せられんことを期せり。

之を要するに、一の問題を多方面より攻究し、以て之が解決を容易ならしめんが爲、重要にして範圍の稍廣汎なる若干の問題を豫め選定し、諸専門の科學者が之に關する研究の結果を寄與するの方針を採れり、而して從來の如く多數の専門的 小分科會を設くることは、共同研究の精神を促進する所以に非ざるを以て、來るべき第三回會議に於ては、交渉の密接なる數個の學科を聯合して、物理的諸科學及生物的諸科學の二大部會を設くることとし更に兩部會を合併して聯合部會を開くこととせり。

分科會は範圍の小なる問題に關する論文又は時間の餘裕なき爲部會に提出すること能はざる論文を發表討議する爲に之を設くるも、會議の本體は部會及聯合部會より成り、而して總數五十三項の問題を豫選したるが、其中二項は聯合部會の問題とし他の五十一項は部會又は分科會の問題とせり。

○聯合部會に於ける問題

- 1、重要な太平洋學術問題の國際共同研究に關する具體的計畫案
- 2、太平洋の物理的及生物的海洋學に關する現今の智識（潮汐、海流、水溫、鹽分、水素イオンの濃度、浮游生物の多寡、生物の浮游幼虫期等に關する事項を含む）

○部會又は分科會に於ける問題

甲、物理的科學部

- 3、特に太平洋地方に關する天文觀測
- 4、太平洋地方の地球物理的問題と太陽の活動との關係
- 5、太平洋地方に於ける地磁氣の分布
- 6、太平洋地方に於ける氣象上の研究、殊に空氣の一般的循環、サイクロン、氣象的諸要素の相互關係
- 7、太平洋地方に於ける氣象及び時刻の無線通報並に之が障害の原因
- 8、測地又は重力若くは垂直線偏倚の測定より推算せる太平洋地方に於けるセオイドの形狀
- 9、太平洋沿岸諸國の地圖作製に用る各縮尺に適應すべき投影法

- 10、太平洋地方に於て子午線に平行せる電波及之を横斷せる電波の減衰度の差
- 11、太平洋地方に於ける地殻運動と地體構造（地震、地殻潮汐、平均海面水準の變動等に關する事項を含む）
- 12、太平洋諸國に於ける地震觀測網に關する報告
- 13、太平洋を横斷する地震波の傳播
- 14、耐震構造
- 15、太平洋地方の火山に關する諸方面の研究
- 16、太平洋地方の溫泉
- 17、太平洋地方に於ける中生層相互の關係
- 18、太平洋地方に於ける鮮新世及洪積世地層の境界
- 19、洪積世及び其の後に於ける太平洋汀線の變遷
- 20、太平洋地方に於ける鑛床成生の時期、及之と同地方の地體構造の統一せることとの關係につきて
- 21、太平洋地方に於ける石炭層の層位
- 22、太平洋地方に於ける含油層の層位
- 23、太平洋地方の鑛物資源（石炭、石油、硫黃、磷鑛、有用金屬）
- 24、太平洋地方に於ける稀有元素の分布
- 25、經濟地理學より見たる太平洋沿岸諸國の現在及將來に於ける通商關係

乙、生物的科學部

- 26、特殊の陸生又は海生植物の分布に顯はれたる太平洋地方フロラ相互の關係
- 27、特に固有種及轉移問題の見地よりする太平洋諸島のフロラ及フオーナ
- 28、太平洋有用水産動植物の保護に關する合理的方法
- 29、遺傳學より見たる主要農産物、殊に米の改良並に家畜の改良
- 30、太平洋地方の昆虫、殊に其の有用動植物に影響するものに關する報告の交換機關
- 31、太平洋に於けるカツラ及マクロの分布と其の生態的研究
- 32、太平洋地方に於ける淡水鰻の分布並に其の發生史
- 33、洋海魚類の卵並に仔魚に關する國際共同研究
- 34、太平洋地方に於ける天然記念物の保存
- 35、太平洋各地方に於て見らるゝ種々の植物更新
- 36、太平洋地方に於ける着生植物の生態
- 37、太平洋地方の新古火山噴出物上に於ける植物の發達
- 38、太平洋地方に於ける火山灰の分布並に其の物理的及化學的性質、特に其の農業的價值
- 39、穀物の合理的貯藏法
- 40、太平洋地方に於ける綠肥の利用
- 41、土壤の分類及其の調査
- 42、太平洋地方に於ける柑橘類の栽培
- 43、太平洋諸國に於ける植物檢疫の科學的基礎
- 44、家畜の流行病及寄生虫病に關する豫防及治療

- 45、太平洋地方に於ける人類の溯源
- 46、太平洋地方諸民族の人體測定
- 47、アイヌ民族、其の起源並に他民族との關係
- 48、人類學上パプア族の位置
- 49、小人種問題、特にニューギニア及フィリッピン群島に於けるものに就て
- 50、東印度諸島に於ける文化發達の研究並に太平洋地方の文化發達に關する社會人類學上文化史學派及マンチエスター學派の諸說に就て
- 51、太平洋地方に於ける氣候と衣食住との關係
- 52、太平洋地方諸民族の特殊疾病の分布、豫防、治療
- 53、蛔虫、十二指腸虫及住血吸虫の分布、發育史、症狀、豫防並に治療

本會議に論文を提出せんとする者は本文の外其の抄録を作製し、本文抄録共英文を以て認め「タイプライター」に附し、抄録は遅くも大正十五年七月三十日迄に、又本文も可成同期日までに文部省内學術研究會議氣付第三回汎太平洋學術會議幹事宛に送付せられたし、而して論文を會場に於て發表するに當りては、其の性質等により講演時間を十分乃至三十分に限り或は更に之を短縮し又は單に表題と提出者の姓名とを報告するに止むるもあるべく、又之に對する討論は一人五分を限り、討論者は其論旨の要領を英文を以て認め之を幹事に提出せられたし、若し英語以外の國語を以て講演又は討論をなさんと欲するときは遅くも前日正午迄に其の要領を英文にて記述し「タイプライター」に附して幹事に提出されたる幹事は直に之を印刷に附して參會者に配布し豫め其の要旨を悉知するを得せしむべし。

本會議に於て發表せられたる各論文又は其の抄録或は單に其の表題と提出者の姓名とは集會の記事と共に報告全集として之を編纂し内外の主要なる學術機關其の他に寄贈す。

五、會 員

一、左の各號の一に該當する者を以て本會議の會員とす

(一)海外諸國の政府又は學術機關の代表員

(二)本會議の推薦に依る者

(三)學術研究會議の會員及本邦委員並に本會議の準備委員

二、會員は總會、聯合部會、部會及分科會に出席し且論文を提出し又は討論に與かることを得

三、海外代表員及其他の海外會員は見學旅行に参加するに當り優先權を有し缺員ある場合に限り國內會員は費用を自辨して之に参加することを得

四、會員には會員徽章を交附す、會員は各種の集會に出席し又は見學旅行に参加する場合には必ず之を佩用するを要す

五、會員にして本會議の報告全集其の他の出版物の配布を希望する向は其の趣を申込むと同時に實費を前納すべし

汎太平洋學術會議に參列

のため、わざわざ外國から來朝した天文家は、米國グサリ女子大學天文台長ミス・C. E. Furness (ファネス)一人である。日本側からは東京天文台から兩平山、早乙女、橋元、福見諸氏、京都大學天文台からは新城山本兩氏、水澤の緯度觀測所から木村所長等が參列せられる筈。